

研修 テーマ	自他のよさを知り、互いに認め合う学級づくりを目指して — 集団での表現活動を取り入れた学級経営の工夫を通して —
-----------	---

模擬授業Ⅱ（授業実践Ⅱ） 第5学年学級活動学習指導案

指導月日 令和元年10月25日

所属校名 加美町立宮崎小学校

氏名 北館 一裕

1 題材名 「2学期の表現活動を振り返ろう」

2 題材の目標

2学期に取り組んだ表現活動について振り返り、相手意識の持ち方について考えたり、表現活動を通して人間関係を広げていこうとする意欲を高めたりする。

3 題材観

本題材は特別活動の内容（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」のイ「よりよい人間関係の形成」を受け、設定した。本学級では、副題に掲げている「集団での表現活動」を学級経営の柱とし、4月から継続して取り組んできた。「集団での表現活動」とは、表現する側とそれを受け止める側の双方が相手意識を持つことで、互いを認め合う人間関係づくりにつなげていくための活動である。

I期は、主に学級内での表現活動について取り組んできた。児童に表現する側、表現を受け止める側の両方を体験させていくことで、双方が相手意識を持つことの大切さについて考えさせることができた。表現活動の内容をエンターテイメント性の高いものとし、児童や学級の実態に合わせながら、段階的・継続的に取り組んできたことで、児童は楽しみながら表現活動に慣れ親しむことができた。また、それらの活動の振り返りを蓄積したり、他者評価を伝え合ったりしたことで、友達のよさを認め相手に伝えたり、自分の成長を感じ取ったりすることができるようになってきた。学級内での児童同士の信頼関係も徐々に構築されてきている。

II期では、今まで主に学級の中で友達に対して発信してきた表現活動の対象を保護者や地域、他学年へと広げていく。学級の児童全員が表現する側となり、互いに協力して表現活動を作り上げたり、披露したりする。信頼関係が構築されてきている学級内での活動に比べ、学級外や学校外など信頼関係があまり構築されていない相手に対して表現活動を行うためには、より高い相手意識が必要となる。学級の児童全員が同じ意識を持ち、協力して表現活動に取り組むことで、充実感や達成感を味わわせたい。

本題材では2学期前半に行った学習発表会や老人ホーム訪問での表現活動を振り返り、1学期に取り組んできた表現活動との違いについて考えさせる。特に相手意識の持ち方について、学級内での活動と学級外や学校外へ発信する活動とでは、どのように自分たちの心情が変化するのか、あるいはどのような心持ちが大切になってくるのかということについて話し合わせたい。さらに、今後も表現活動に継続して取り組ませながら、活動の場を他学年などへ展開していくことで、1学期に育んできたコミュニケーション能力を生かしながら人間関係の範囲を広げていけるような取り組みを促していく。

4 児童の実態 [第5学年1組 男7名 女5名 計12名]

4月当初は、表現することに対して消極的な児童が多く、日常生活でも自分をのびのびと表現できていない場面が見られた。また、児童の中には失敗や間違いを気にするあまり、活動が停滞してしまう児童やグルーピングなどを行う際には、自分から進んで声を掛けることができない児童も見られた。

しかし、学級経営の柱として「集団での表現活動」に継続して取り組んできたことにより、個人差はあるものの、一人一人が着実に成長してきたことを感じる。表現活動においては表現することへの積極性や、相手の表現を受け入れる寛容性、互いに意思疎通を行うコミュニケーション能力などにおいて個人内での向上が見られた。また、日常生活や学習場面においても授業中の発言における積極性や苦手意識がある活動に対するチャレンジ精神や忍耐力、友達を尊重したり思いやったりする姿勢などの面において成長が見られた。I期の取組において、児童は表現活動を通して友達のよさや自分自身の成長を感じ取ることができていた。しかし、それらが日常生活の自分たちの変化とどのように結び付いているのかという部分において認識が不十分だったように感じる。表現活動における相手意識の持ち方について継続した指導を行っていく中で、友達のよさや自分自身の成長が日常生活や学習場面にも通じているということを意識していくように教師が働き掛けていく必要がある。

5 指導観

本研修を通して「集団での表現活動」に段階的・継続的に取り組ませていくことで、児童同士の信頼関係を深めさせ、今以上に自分を表現したり、相手の表現を受容したりできるようにしたい。さらに、表現活動の振り返りを生かして児童自らが自分たちのよさや課題に気付けるような働き掛けを行っていく。また、相手の表現を受け止める寛容な姿勢や態度、思いやりの心などの重要性についても考えさせ、表現する側とそれを受け止める側が互いに信頼し合い、協力し合うことでよりよい集団を築くことができるように、学級経営の工夫を行っていく。児童の実態を踏まえつつ、様々な「集団での表現活動」の経験をさせていくことで、児童に充実感や達成感を味わわせたい。

I期の表現活動としては、毎日の活動として、朝の会で日直が1分間スピーチに取り組み、感想を交流した。帰りの会では係活動の発表の時間を確保し、継続して取り組んできた。「イベント・デコレーション係」「クイズ係」「新聞・マジック係」「お笑い係」の4つの係活動を組織し、それぞれダンスやクイズ、手品や漫才などの活動を行ってきた。また、学校行事では志津川合宿のキャンドルセレモニーでグループ毎にスタンツの発表会を行った。2週間弱の期間でグループ毎に出し物を考え、計画的に練習に励み、当日は全てのグループが満足のいく発表を行うことができた。I期の取組の多くは教師の提案で行ってきたが、児童に発表内容に関する意思決定をさせてきたことで、児童が自ら表現活動を実践し、評価を受けたという達成感が積み重なってきている。表現することや友達の表現を見たり聞いたりすることへの興味・関心が高まり、相手を意識した表現の仕方や相手の表現を肯定的に受け止める態度や心情において成長が見られた。

II期はI期の朝・帰りの会で行われる常時活動を継続しながら、更に全員が表現する側になり、保護者や地域の方々、他学年に表現活動を発信していく。2学期前半に行われる学習発表会や老人ホーム訪問などの活動を振り返り、学級内で行う表現活動と学級や学校の外に発信する表現活動にはどのような違いがあるのかを考えさせる活動を行う。ある程度の信頼関係がある相手に発信する表現活動と、それほど信頼関係がない相手に発信する表現活動では、表現をする側にとってどのような心情の違いがあり、またどのような相手意識を持つことが必要になってくるかについて話し合わせたい。その上で、学習発表会や老人ホーム訪問での取組についても認め、行ってきた実践に自信を持たせる。より多くの相手に表現することは緊張感やプレッシャーも大きい分、やり遂げたときの充実感や達成感も大きいはずである。2学期前半の取組を通して児童は表現活動への自信や意欲が高まってきているものと思われる。今後の表現活動の取組として他学年へ発信していくことを提案することで、より自主的な取組へと発展させていく。

6 研修テーマとの関連

- (1) 研修テーマ　　自他のよさを知り、互いを認め合う学級づくりを目指して
　　— 集団での表現活動を取り入れた学級経営の工夫を通して —
- (2) 研修課題との関連

本研修課題を解決するために、以下の点について具体的に取り組んでいく。

① 実態把握を踏まえた段階的、継続的な「集団での表現活動」の工夫

学級の時間や特別活動の時間を活用して、「集団での表現活動」に取り組ませていく。その際、Q U等のアンケートを用いて児童一人一人や集団の状態を把握し、初期の段階では児童への過度な負担とならないような取組を教師が提示していく。活動のバランスを考え、段階的に取り組ませながら、徐々に主体的な活動につなげていく。また、活動の際には表現を受け止める側の重要性についても考えさせ、表現する側と表現を受け止める側の双方が互いに相手意識を持った表現活動になるよう心掛けさせる。Ⅰ期の段階では、表現活動を主に学級内での活動とし、児童が表現する側と表現を受け止める側のそれぞれに属することで、双方が相手意識を持って表現活動に取り組むことの大切さについて考えさせる。表現することが苦手な児童には、表現を受け止める側として「集団での表現活動」に参加させていくことで、徐々に興味関心を高めていくことができるようにならう。学級内の信頼関係の構築を図り、安心感をもって表現活動に取り組める空間を作り上げていく。Ⅱ期の段階では、学級の児童全員が表現する側となり、協力して1つの表現を保護者や地域、他学年など学級外や学校外に発信していく。信頼関係が構築されていない存在に対して、どのような態度や心情で表現活動を行うべきかを考えさせる。

② 児童の自主的な取組や発言を促す工夫

教室内に係活動コーナーを設けることで、係からの表現活動の情報を発信できるようにし、児童が自発的に表現活動に取り組んだり、自主的により楽しい学校生活ができるようになります。各係で取り組んだ表現活動の様子やそれらの感想、他者評価についても掲示し、児童の表現活動に対する意識を高めるような環境づくりを行う。学校行事や児童会活動などで取り組む表現活動においては内容について自分たちで考えさせたり、計画的に練習に取り組ませたりして、自主的な活動を促す。また、学級活動の話合いでは学級活動ノートを活用して、事前に意見をまとめたり、振り返りに役立てたりすることで児童一人一人が目的意識を持って話合いに参加できるようになる。

③ 自分や友達のよさを実感できる振り返りや評価の工夫

朝の会のスピーチ活動や帰りの会などで行う表現活動については、毎月定期的に振り返りを行う。また、学校行事や係などの取組はその都度振り返りを行う。振り返りの内容は、自分自身の感想や前回の表現活動との相違点などについて記述させるようになる。また、表現活動を行った友達だけでなく、それを受け止めた友達の良い点についても振り返る視点を与え、表現活動を受け止める側の重要性についても考えさせるようになる。さらに、児童一人一人の振り返りを蓄積していくことで、変容を見ていく。係活動コーナーやいいこと探しコーナーなど、友達への称賛などを可視化できるコーナーを設け、互いのよさを認め合える手立てとする。

7 題材の指導と評価の計画

(1) 「集団での表現活動」の取組の計画

学期	月	学級活動	学校行事・児童会行事	学級の時間・係活動
1 学 期	4	学級開き(自己紹介・エンカウンター)		<毎日の取組>
	5	思い出に残る運動会にしよう	運動会での取組	○ 朝の会・帰りの会
	6	志津川合宿のスタンツを計画しよう	志津川合宿でのスタンツ	・ 毎日短時間、表現活動を行う。
	7	1学期の表現活動を振り返ろう		<係活動>
2 学 期	8	夏休みの発表会をしよう		・ イベント・デコレーション係
	9	学習発表会を成功させよう		・ お笑い係
	10	老人ホームを訪問しよう	学芸会での劇	・ クイズ係
	10	2学期の表現活動を振り返ろう①		

	10	宮小祭を成功させよう		・ 新聞・マジック係 ※ 曜日を決めて表現活動を行う。
	11	お楽しみ会をしよう	宮小祭での取組	
	12	2学期の表現活動を振り返ろう②		
3 学 期	1			
	2	6年生を送る会の計画を立てよう		
	3	3学期の表現活動を振り返ろう	6年生を送る会での出し物	

(2) 評価の計画

指導項目	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現	主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする態度
話合い	話合いの内容に沿って意見を言ったり、友達の意見を聞いたり、自分自身の意思決定をしたりすることができる。 【発言、観察、ノート】	より相手意識を持った表現活動の在り方について考え、自分の意見を考えたり、発表したりすることができる。 【発言、観察、ノート】	今後の表現活動を通して、学級の外に人間関係を広げていくことに対して意欲を持つことができる。 【発言、観察、ノート】

8 本時の計画

(1) 目標

- 2学期に取り組んだ表現活動を振り返り、相手意識の持ち方について自分自身の考えをまとめたり、発表したりすることができる。
- 表現活動を通して人間関係を広げていくことについて意欲を持つことができる。

(2) 本時の指導に当たって

① 実態把握を踏まえた段階的、継続的な「集団での表現活動」の工夫

I期の活動を踏まえて、II期では表現活動の取組を学級の外に発信していく。2学期前半に行なった表現活動を記録しておき、導入時の振り返りに活用する。展開1では、1学期と2学期の表現活動について表現を受け止める側の違いに気付かせ、それぞれの表現する側の心情について確認する。そして、展開2において、信頼関係が構築されていない相手に対してどのような態度や心情で表現活動を行うべきかを考えさせる。また、より多くの観客の前で表現活動を行なったことへの達成感や充実感を味わわせ、表現活動への自信と意欲を高めさせる。さらに今後の活動として他学級へ表現活動を発信していくことを提案し、自主的な活動へつなげていけるようにする。

② 児童の自主的な取組や発言を促す工夫

授業ではI期同様、学級活動ノートを活用させ、振り返りの記述を蓄積していく。また、自分の考えをまとめさせたり、友達の意見を記録させたりして、その後の対話や一斉の場での話合いに活用させる。学習発表会や老人ホーム訪問での振り返りを生かして、他学年へ表現活動を発信させていく。その際の表現活動の内容について自分たちで話し合せたり、計画的に練習に取り組ませたりする。

③ 自分や友達のよさを実感できる振り返りや評価の工夫

I期同様、表現活動についての振り返りを継続し蓄積していくことで、児童の変容を見ていく。また、表現活動の振り返りを通して相手意識を高めさせていくことで、児童が友達のよさや自分の成長に気付くことができるようになる。教師は児童の気付きを日常生活や学習場面と結び付けられるような発問や問い合わせなどを工夫していく。

(3) 指導過程

段階	・ 学習活動 □ 教師の発問 ◇ 児童の反応	○ 教師の働きかけや指導上の留意点 ◎ 研修に関わる視点	☆ 評価 【方法】
導入	1 学習発表会の画像を見て、2学期の表現活動を	◎ 2学期前半に取り組んだ学習	

5分 導入 5分	<p>振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> これは何の写真でしょうか。 ◇ 学習発表会の写真だ。 <input type="checkbox"/> 2学期の表現活動を通してどんな感想を持ちましたか。 ◇ 緊張したけれど、楽しかった。 ◇ 1学期よりもみんなで協力できた。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <table border="1" data-bbox="277 534 854 579"> <tr> <td>2学期の表現活動について振り返ろう。</td> </tr> </table>	2学期の表現活動について振り返ろう。	<p>発表会の画像を提示することで、そのときの様子や心情を想起させる。</p> <p>◎ 友達のよさや自分の成長について気が付いたことや1学期から変化を感じた部分について発表させる。</p> <p>○ 本時のめあてについて考えさせ発言させることで、学習への意欲を持たせる。</p>				
2学期の表現活動について振り返ろう。							
展開1 10分	<p>3 1学期の志津川合宿と2学期の老人ホーム訪問での表現活動の画像を提示し、その違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 2つの表現活動の違いは何でしょうか。 ◇ 志津川合宿に比べて老人ホーム訪問のときは見ている人がたくさんいた。 ◇ 志津川合宿は見ている人が学級の友達だけれど、老人ホーム訪問のときは見ている人がほとんど知らない人だった。 <input type="checkbox"/> 2つの表現活動では、それぞれ表現するとき、どんな気持ちでしたか。また、そう感じたのはなぜだと思いますか。 ◇ 志津川合宿では、学級の友達が盛り上げてくれると思ったから安心して表現活動ができた。 ◇ 老人ホーム訪問は知らない人が多くて、盛り上がらなかつたらどうしようと思い、緊張した。 	<p>◎ 1学期に取り組んだ表現活動（志津川合宿）と2学期前半に取り組んだ表現活動（老人ホーム訪問）の画像を掲示し、取組について想起させる。その際、表現を受け止める側が1学期の活動では学級内の仲間、2学期は老人ホームの利用者という違いに気付かせるようする。</p> <p>◎ 学級活動ノートの振り返り等を見せながら、その時の思いを発言させるようにする。</p> <p>◎ 表現をする側と表現を受け止める側との信頼関係の度合が異なるとき、表現する側にはどのような心情の変化があるのかを確認し、1学期と2学期の表現活動の違いを明確にする。</p>	<p>☆ 2学期に取り組んだ表現活動を振り返り、相手意識の持ち方について自分自身の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 【発言、観察、ノート】</p>				
展開2 25分	<p>4 表現を受け止める側との信頼関係が構築されていないときに行った異なる2つの表現活動（①盛り上がりなかつたもの、②盛り上がつたもの）の画像を見て、感じたことを発表する。始めは学級活動ノートにまとめ、ペアで対話を行った後、一斉の場で発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 画像①はなんで上手くいかなくて、画像②はなんで上手くいったのだろう。 <table border="1" data-bbox="293 1706 854 1920"> <tr> <th>画像①</th> <th>画像②</th> </tr> <tr> <td>◇ 知っている人がいなかつたから。 ◇ 内容が良くなかったから。 ◇ 自分達が目立ちたかつたから。 ◇ 気持がばらばらだつたから。</td> <td>◇ 知っている人が少いから。 ◇ 相手に合わせた内容にしたから。 ◇ 相手を楽しませようとしたから。 ◇ 友達と協力できなかつたから。</td> </tr> </table> <p><問い合わせ></p> <p>■ 知っている人が一人もいなかつたら上手くいかなかつたのだろうか。</p>	画像①	画像②	◇ 知っている人がいなかつたから。 ◇ 内容が良くなかったから。 ◇ 自分達が目立ちたかつたから。 ◇ 気持がばらばらだつたから。	◇ 知っている人が少いから。 ◇ 相手に合わせた内容にしたから。 ◇ 相手を楽しませようとしたから。 ◇ 友達と協力できなかつたから。	<p>◎ 画像①は盛り上がりなかつたと感じている表現活動の様子、画像②は盛り上がって児童が上手くいったと感じている表現活動（老人ホーム画像）の様子をそれぞれ見せ、なぜそうなつたのか要因について考えさせる。</p> <p>○ 画像①・②の活動は共に、自分たちが納得した上で取り組んだものであることを確認する。</p> <p>◎ 学級活動ノートに自分の考えをまとめ、ペアで対話をを行うことで、自分の考えに自信を持たせて発表させる。</p> <p>◎ 問い返しを行いながら、信頼関</p>	<p>☆ 2学期に取り組んだ表現活動を振り返り、相手意識の持ち方について自分自身の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 【発言、観察、ノート】</p>
画像①	画像②						
◇ 知っている人がいなかつたから。 ◇ 内容が良くなかったから。 ◇ 自分達が目立ちたかつたから。 ◇ 気持がばらばらだつたから。	◇ 知っている人が少いから。 ◇ 相手に合わせた内容にしたから。 ◇ 相手を楽しませようとしたから。 ◇ 友達と協力できなかつたから。						

	<p>■ もし、内容を入れ替えてやっていたらどうだろうか。</p> <p>■ 目立ちたいと思うのは良くないことなのだろうか。</p> <p>■ なぜ友達と協力できたのだろう。</p> <p>□ 相手との信頼関係が構築されていないときでも、表現活動をするときに大切なことはどのようなことだと思いますか。</p> <p>◇ 相手のことを考えることが大切だと思う。</p> <p>□ それは、表現を受け止める側にとってはどうですか。</p> <p>◇ 受け止める側も相手を思いやる気持ちが必要だと思う。</p> <p>◇ 盛り上げられないときもあると思うけど、相手のことを考えれば無視はしない。</p> <p>□ 日常生活や他の学習場面でも同じような場面はありませんか。</p> <p>◇ 友達の発表は最後まで聞いてあげないといけないと思う。</p> <p>◇ 他の学年の発表などもきちんと聞くようにしたい。</p> <p>◇ 頑張っている人を応援するようにしたい。</p> <p>◇ 普段の生活でも相手のことを考えるということは大切だと思う。</p>	<p>係が構築されていない相手に対しても相手意識を持って表現をすることは相手を尊重することにつながるということを理解させる。</p> <p>○ 事例を挙げ、信頼関係が構築されていない相手に対して相手意識を持つことは、表現する側だけでなく、受け止める側にとっても大切であることに気付かせる。</p> <p>○ 相手意識を持つことについて、日常生活や学習場面においてはどうなのかを投げ掛け、自分たちの生活の中で同じような状況になったときの対応について考えさせる。</p> <p>○ 学習発表会や老人ホーム訪問など2学期前半の表現活動を通して、児童は信頼関係が構築されていない相手にも相手意識を持って活動に取り組むことができたことを伝える。それが、より大きな充実感や達成感につながっているということを教え、表現活動への自信や意欲を持たせるようにする。</p> <p>○ 今後の表現活動として、どのような取組がしたいかを発表させる。今までの学級内での取組から、他学年や地域などに範囲を広げられるような助言を行う。</p>	<p>☆ 表現活動を通して人間関係を広げていくことについて意欲を持つことができる。</p> <p>【発言、観察、ノート】</p>
まとめ 5分	<p>6 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りを行い、交流する。 	<p>○ 学級活動ノートに本時の振り返りをまとめさせる。まとめ終わった児童から発表させる。</p>	

(4) 本時の評価

- 2学期に取り組んだ表現活動を振り返り、相手意識の持ち方について自分自身の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 【発言、観察、ノート】
- 表現活動を通して人間関係を広げていくことについて意欲を持つことができる。 【発言、観察、ノート】